

河内長野市南花台地域での取組が学术论文に掲載!!
高齢者の移動支援「のりあい」から「ふれあい」へ
電動カート（クルクル）は“動く交流の場”!?

～利用で外出約 1.9 倍、さらにはこころ、人とのつながりまで 2.1～5.2 倍良好に～

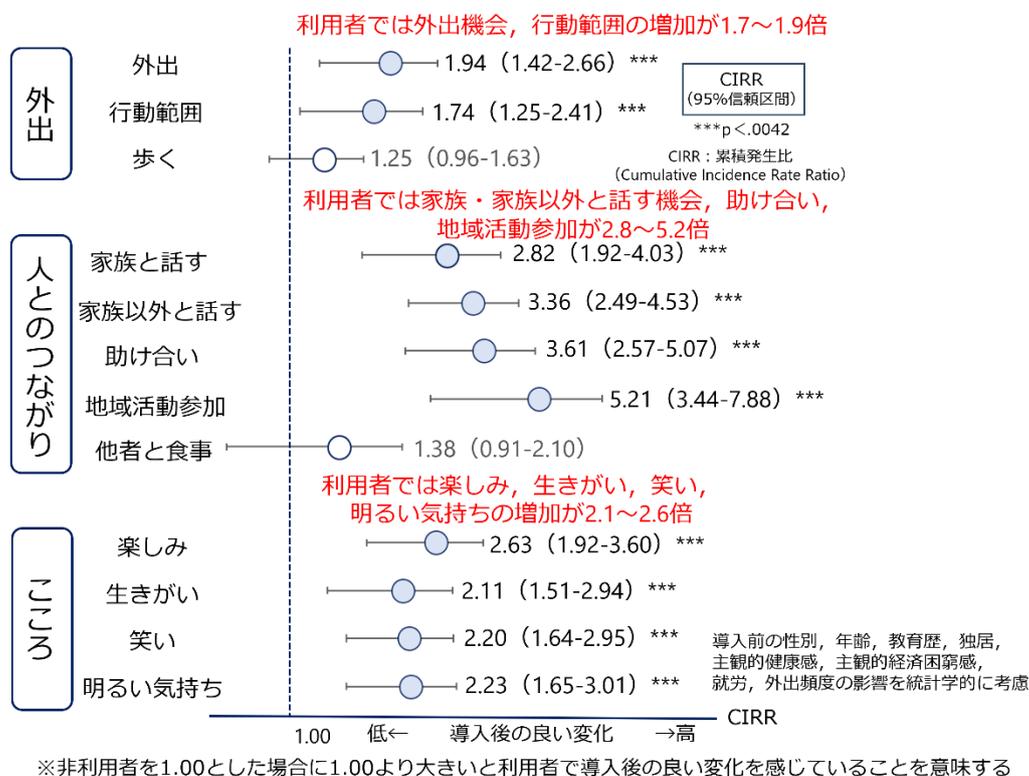
河内長野市南花台地域では、平成 26 年度に南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業「咲っく南花台プロジェクト」を立ち上げ、以降様々な取組を実施してきました。この取組の中から、買い物応援や移動支援のニーズを把握し、令和元年 12 月より、グリーンスローモビリティ（時速 20km 未満で公道を走ることができる電動カートを利用した移動サービス：南花台モビリティ「クルクル」）の運行を開始しました。

この度、河内長野市、千葉県松戸市、ヤマハ発動機株式会社、千葉大学予防医学センターが連携し、アンケートにより高齢者の健康状態や暮らしの変化を調査し、電動カートが健康・暮らしにどのような影響を与えるのか 65 歳以上の利用者・非利用者 599 人で検証しました。

その結果、電動カート利用者では、非利用者と比較し、以下のような導入前後の主観的な変化を感じていることがわかりました。

- 外出機会、行動範囲の増加：1.7～1.9 倍
- 家族・家族以外と話す機会、助け合い、地域活動参加：2.8～5.2 倍
- 楽しみ、生きがい、笑い、明るい気持ちの増加：2.1～2.6 倍

南花台モビリティ「クルクル」はこれまで外出が困難であった方々に対する移動支援としての効果だけでなく、外出、こころ、人とのつながりに良い変化をもたらす“動く交流の場”のような機能をもち、「のりあい」から「ふれあい」につながる移動支援に留まらない地域の課題を解決する可能性が示されました。本成果が、学术论文として令和 5 年 10 月 24 日に「老年社会科学」に掲載されました。



図：電動カート（グリスロ）利用と導入前後の外出、人とのつながり、こころの変化（n = 599）

補足情報

■背景

河内長野市南花台では、平成26年度に南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業「咲つく南花台プロジェクト」を立ち上げ、以降様々な取組を実施してきました。この取組の中から、買い物応援や移動支援のニーズを把握し、令和元年12月より、南花台モビリティ「クルクル」の運行を開始しました。

電動カートの導入は地域の移動手段の課題を解決し、高齢者の外出機会を維持・増加させ、移動に留まらない人とのつながりやこころにより変化をもたらす波及効果も期待されます。しかし、これまで電動カート導入前後のデータを用い、利用者・非利用者を比較して外出・人とのつながり・こころとの関連を検証した報告はありませんでした。そこで、電動カート導入後の電動カート利用と外出・こころ・人とのつながりの主観的変化の関連を検証しました。

■対象と方法

令和3年度にヤマハ発動機株式会社が2市3地域(大阪府河内長野市南花台、千葉県松戸市河原塚地区・小金原地区)で実施した約8週間の電動カート導入事業前後の自記式質問紙調査を行いました。南花台では、この期間、南花台モビリティ「クルクル」の通常運行とは別に、電動カートを増便して運行しました。対象は、導入地域に住み、導入前後の自記式調査に回答した電動カート利用・非利用者からなる65歳以上の高齢者599人でした。電動カート導入前の性別、年齢、教育歴、独居、主観的健康感、主観的経済困窮感、就労、外出頻度の影響を統学的に考慮した分析を実施し、電動カート利用者は非利用者と比較して、外出(外出、行動範囲、歩く)・人とのつながり(家族と話す、家族以外の人と話す、助け合い、地域活動参加)・こころ(楽しみ・生きがい・笑い)の主観的変化を感じているかを調べました。

■結果

導入期間中の電動カート利用者は149人(24.9%)でした。電動カート利用者では、非利用者と比較し、以下のような導入前後の主観的な変化を感じていることがわかりました。

- 外出機会、行動範囲の増加:1.7~1.9倍
- 家族・家族以外と話す機会、助け合い、地域活動参加:2.8~5.2倍
- 楽しみ、生きがい、笑い、明るい気持ちの増加:2.1~2.6倍

■結論・意義

電動カート利用者は、非利用者と比較して、外出、こころ、人とのつながりの良い変化を感じている確率が約1.7-5.2倍高いことがわかりました。南花台モビリティ「クルクル」はこれまで外出が困難であった方々に対する移動支援としての効果だけでなく、外出、こころ、人とのつながりに良い変化をもたらす“動く交流の場”のような機能を持ち、「のりあい」から「ふれあい」につながる移動支援に留まらない地域の課題を解決する可能性が示されました。今後、電動カート運行の継続、対象者の長期追跡により、電動カート利用による要介護リスク、社会保障費用抑制についての検証も必要となると考えられます。

■発表論文

田村元樹, 井手一茂, 花里真道, 中込敦士, 竹内寛貴, 塩谷竜之介, 阿部紀之, 王鶴群, 近藤克則. 地域在住高齢者におけるグリーンスローモビリティ導入による外出、社会的行動、ポジティブ感情を感じる機会の主観的変化: 前後データを用いた研究. 老年社会科学 45(3) 2023, , 225- 238.

■謝辞

本研究へ参加、協力いただきました調査参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。